

アクティブ元年・日本株ファンド

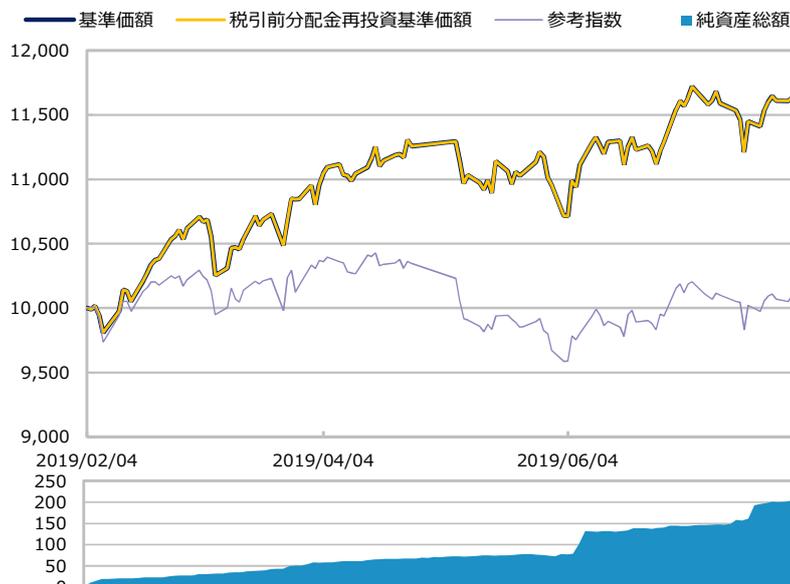
【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

ファンド設定日：2019年02月05日

日経新聞掲載名：ア元年日本株

基準価額・純資産総額の推移（円・百万円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。
- 参考指数は、TOPIX（配当込み）です。ファンド設定日前日を10,000とした指数を使用しています。詳細は後述の「ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	11,568	+273
純資産総額（百万円）	203	+63

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド	参考指数
1 カ月	2019/06/28	2.4	0.9
3 カ月	2019/04/26	2.8	-3.1
6 カ月			
1 年			
3 年			
設定来	2019/02/05	15.7	0.3

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- 換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
設定来累計		

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	当月末	前月比
株式	96.5	-0.4
第1部	74.6	-0.2
第2部	7.4	-0.4
ジャスダック	1.6	-0.1
その他	12.8	+0.3
先物等	0.0	0.0
現金等	3.5	+0.4
合計	100.0	0.0

運用概況

当月末の基準価額は、11,568円（前月比+273円）となりました。

また、税引前分配金を再投資した場合の月間騰落率は、+2.4%となりました。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

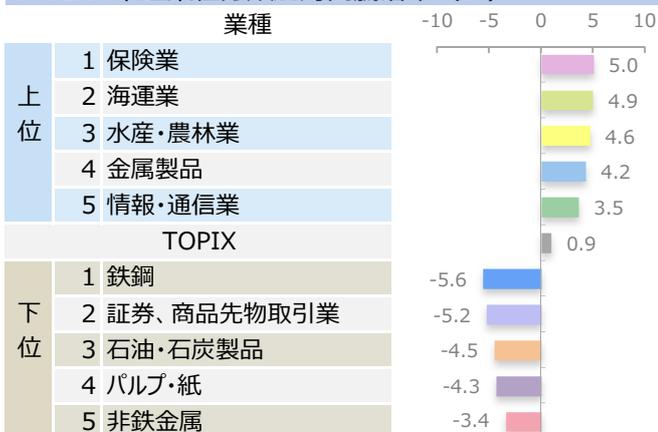
ご参考 市場動向



日経平均株価 (円)



TOPIXの東証業種分類別月間騰落率 (%)



※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

市場動向

上旬は、米中首脳会談で、貿易協議の再開や対中追加関税の先送りなどで合意したことを好感し、上昇して始まりました。その後は、米国で堅調な雇用統計を受けて利下げを過度に期待する見方が後退したことなどから、上値が重い展開でした。中旬は、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長の発言を受けて、米国の利下げ期待が再び高まったものの、円高・米ドル安の進行から下落しました。下旬は、企業の決算発表が始まると、半導体関連企業の業績回復期待が高まる場面があったものの、製造業全体では市場予想を下回る低調な決算が相次いで発表されたことが重しとなり、一進一退の展開でした。なお、月末には米国で、約10年半ぶりに利下げが実施されました。業種別では、保険業、海運業、水産・農林業などが市場をアウトパフォームした一方、鉄鋼、証券・商品先物取引業、石油・石炭製品などがアンダーパフォームしました。

市場見通し

株式市場は変動の激しい展開を想定します。世界景気は、米中貿易摩擦の影響を受けて主要国の製造業景気感の低下が続いており、先行きは未だ不透明です。また、企業業績についても、設備投資を中心に米中貿易摩擦の影響を受けた下押し圧力が残ることから、回復には時間を要する可能性があります。ただし、主要各国における緩和的な金融政策が景気を下支えることにより、世界景気の底割れは回避できるものと想定します。当面の株式市場については、景気および企業業績の底入れタイミングを睨みつつ、米中貿易交渉の行方や金融財政政策への期待に左右される展開を想定します。リスク要因としては、米中貿易協議の決裂、中国・欧州における信用不安の増大、中東情勢の緊迫化、英国のEU（欧州連合）離脱問題などに留意する必要があります。

■ 設定・運用



アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

基準価額の変動要因（円）

全体		業種別要因		銘柄別要因			
	寄与額		寄与額		寄与額		
株式	+283	上位	1 サービス業	上位	1 ライク	+81	
先物・オプション等	0		2 情報・通信業		+55	2 トランザクション	+40
分配金	0		3 小売業		+38	3 神戸物産	+35
その他	-10		4 医薬品		+27	4 メディアトゥホールディングス	+34
合計	+273		5 卸売業		+25	5 クミアイ化学工業	+32
		下位	1 金属製品	下位	1 三機サービス	-46	
			2 機械		-8	2 インパクトホールディングス	-30
			3 輸送用機器		-3	3 エムアップ	-24
			4 不動産業		-1	4 マルゼン	-22
			5 ガラス・土石製品		-0	5 リファインパース	-19

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

組入上位10業種（%）

	当月末	前月比	
1 サービス業	24.6	-0.9	24.6
2 情報・通信業	14.5	+1.0	14.5
3 小売業	9.7	-1.0	9.7
4 卸売業	8.6	+1.4	8.6
5 その他製品	7.8	-0.6	7.8
6 化学	7.1	+0.3	7.1
7 電気機器	4.1	+0.4	4.1
8 食料品	2.6	+0.9	2.6
9 医薬品	2.4	+0.0	2.4
10 電気・ガス業	1.9	-0.0	1.9

※ 業種は東証業種分類です。

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 68)

銘柄	業種	比率	コメント
1	ライク サービス業	2.5	人材派遣を主力事業としており、M&Aにより保育、介護の事業にも参入しています。中期的には需要の強い保育、介護事業の成長に加えて、特定派遣人材の活用や外国人材紹介など人材事業の拡大も期待しています。
2	トランザクション その他製品	2.2	一般雑貨・エコ雑貨製品の企画・デザインから生産・販売まで一貫した事業展開をしています。エコバッグ、タンブラー・ボトルなど企業の販促グッズとして使用されるものが多く、近年進めている顧客囲い込み戦略に注目しています。
3	クミアイ化学工業 化学	2.1	農業事業専門の会社です。研究開発力に優れ、自社開発の畑作用除草剤「アクシーヴ」が海外で伸びています。これまでは米国の大豆向け販売が主力でした。足下ではアルゼンチン向けも伸びており、今後はブラジル、インドでの販売を期待しています。
4	ジャストシステム 情報・通信業	2.0	ワープロソフト「一太郎」で有名なソフトウェア会社です。専用タブレットで学ぶ通信教育サービス「スマイルゼミ」が成長中です。教育現場のICT化の恩恵が期待されます。キーエンスの傘下となって以降、収益管理の徹底が進み、最高益を更新中です。
5	メディアドゥホールディングス 情報・通信業	2.0	出版デジタル機構との統合により、電子書籍の取次で圧倒的なポジションを築いています。電子書籍のプラットフォームとして、市場拡大の恩恵を受けることが期待されます。中期的にはグローバル展開や周辺事業の拡大にも注目しています。
6	キュービーネットホールディングス サービス業	2.0	ヘアカット専門店「QBハウス」を運営しています。鉄道会社との契約により、駅構内の立地を押さえていることが強みの1つです。2月の値上げ後も、会社想定ほど客数は減らず、収益性向上が見込めます。中期的には出店や増席による成長に期待です。
7	神戸物産 卸売業	1.9	「業務スーパー」をフランチャイズ展開しています。輸入食材や同社で生産するプライベートブランド（以下、PB）商品を提供し、価格優位性を持っています。「業務スーパー」の着実な成長に加え、PB売上比率の上昇等による収益性改善が期待されます。
8	メンバーズ サービス業	1.9	大手企業にデジタルマーケティング総合支援専任チームを提供するEMC事業、IT企業に同社の正社員を派遣するデジタル人材業を展開しています。顧客企業における人材不足、IT人材の採用拡大に伴い、需要拡大が期待されます。
9	オイシックス・ラ・大地 小売業	1.9	主に有機野菜やミールキット（食材セット）の宅配事業を手掛けています。「大地を守る会」「らでいっしゅぼーや」等を買収し、事業規模を拡大しています。買収による顧客基盤拡大に加え、NTTドコモとの提携に伴うミールキットの販売拡大などが期待されます。
10	レノバ 電気・ガス業	1.9	太陽光発電やバイオマス発電など再生エネルギー事業を行っています。建設中の発電所が順次稼働することで業績成長が期待されます。中期的には政府も国策として後押ししている、洋上風力発電に注目しています。

※ 組入銘柄の紹介を目的としており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。また、記載内容は作成時点のものであり、将来予告無く変更されることがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

【当ファンドの運用チーム（TEAM ACTIVE）のご紹介】

古賀 直樹 Naoki Koga

株式運用第一部 シニアファンドマネージャー

1997年に千代田生命保険（現ジブラルタ生命保険）に新卒入社し、翌年から国内株式運用業務に従事。その後、2001年3月にトヨタアセットマネジメント（現三井住友DSアセットマネジメント）に入社。同社を代表するアクティブファンドであるトヨタアセット配当フォーカスオープン（現三井住友・配当フォーカスオープン）の運用を立ち上げから約10年間担当し、リスクを抑えつつ市場平均を上回る良好な実績を残す。三井住友DSアセットマネジメントでは現チームに参加し、徹底したリサーチに基づく銘柄選択手法に磨きをかけ、同チームの機関投資家向けファンドの実績に貢献。「ファンドマネージャーとしての仕事はお客さまに支えられて存在している」ということを信条とし、常にプロとしての責任感を心に刻みながら、日々企業訪問・リサーチに奔走している。



金子 将大

Masahiro Kaneko
ファンドマネージャー

木田 裕

Hiroshi Kida
シニアファンドマネージャー

梅原 康司

Koji Umehara
シニアファンドマネージャー



三井住友DS
投信直販ネット
TOPページ



最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過＞

7月は、米国株式市場が米国金利引下げ期待（※）などから最高値を更新するなど堅調でしたが、日本の株式市場は為替の円高基調などから上値が重たく、上昇幅は限定的でした。こうした市場環境の中で、当ファンドにおいては、ライクやトランザクションの株価上昇など個別銘柄選択が奏功し、基準価額は堅調に推移しました。

（※）米国金利は7月末に0.25%の利下げが実施されました。

当ファンドでは、7月末に68銘柄に投資しており、前月末に比し1銘柄増となっています。

7月も、徹底した企業取材をベースにした銘柄選択の中で「ちょっと先の未来」に企業価値の高まっている可能性が高いと判断した5銘柄を新規に買い入れました。一方で、株価の上昇が想定以上に速いペースで進んだ銘柄の利益確定や、より投資魅力が高い銘柄への入替を進めるために、4銘柄を全売却しています。

＜ファンドマネージャーに聞きました＞

2019年2月5日より、投信直販ネット専用で、当ファンドの取扱いを開始いたしました。以下、運用を担当する古賀シニアファンドマネージャーの運用方針や考え方等を、Q&A形式でお知らせいたします。

Q1.

当ファンドの運用を開始してから約半年が経過しましたので、今回はこれまでの運用状況を振り返ってみたいと思います。まずは設定来の運用状況の総括をお願いします。

A1.

当ファンドの**7月末の基準価額は11,568円**となっており、**2月5日の設定日からの騰落率は+15.7%**となりました。ちなみに、同期間の市場平均（参考指数）の騰落率は+0.3%となっており、当ファンドのパフォーマンスが上回る結果となっています。月別にはマンスリーレポートでも報告してきましたが、ここまでは**各月とも市場平均を上回るパフォーマンスで推移**しており、堅調なスタートとなったと考えています。

当期間の国内株式市場は、一定のレンジで推移するボックス相場となりました。5月にはトランプ米大統領の対中関税引き上げへの言及から株価が急落するなど、米中貿易摩擦などを背景とした世界景気の先行き不透明感から不安定な展開が続きました。

そうした中で、当ファンドにおいては、**個別銘柄選択が奏功し、基準価額は堅調に推移**しました。市場平均などを全く意識せずに、ファンドマネージャー4名自らが積極的に実施している企業取材をベースに「**ちょっと先の**

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

ファンドマネージャーコメント

未来に「**企業価値が高まっている企業**」あるいは「**市場評価が高まっている企業**」を選び出して、投資してきたことが成果につながっているものと考えています。

2月5日の設定日から50銘柄強で運用を開始し、**7月末の銘柄数は68銘柄となっています。この約半年の間にも、私たちは企業への取材活動も積極的に行い、企業が目指す未来の姿を確認するとともに、その確度についても検討したうえで、運用資産の拡大に併せて、投資魅力が高いと判断した企業への投資を進めてきました。**一方で、株価の上昇スピードが速く、割安感が薄れた銘柄については、利益確定の売却で投資ウェイトを調整したり、全売却したりしました。また、ちょっと先の未来の見通しに対しての自信が薄れた銘柄などの売却も実施しています。

この約半年の運用においては、**個別銘柄選択の結果として、規模で見ると中小型株中心で、業種構成ではサービス業や情報・通信業のウェイトが高いポートフォリオ**での運用となっています。

Q2.

個別銘柄選択が奏功したということですが、基準価額上昇に寄与した銘柄とその銘柄に投資した理由を教えてください。

A2.

設定から7月までの約半年間で**当ファンドの基準価額の上昇に寄与した主な銘柄**は、**ライク、ティーケーピー、神戸物産、メンバーズ、ジャストシステム**などです。

寄与度トップとなったライクは**人材派遣業を主力**としており、M&A（企業の合併・買収）で**保育や介護の事業にも参入**しています。人材派遣においては、携帯キャリアのショップ店員の派遣などを手掛けています。**携帯キャリアの競争激化に伴う派遣事業の拡大や、保育無償化を背景とした認可保育園の開園数拡大の可能性への期待**などから株価は堅調に推移しました。**中期的には介護事業も含めた既存事業の拡大に加え、外国人や特定派遣人材の人材紹介の展開にも期待**しています。

一方で、**投資したすべての銘柄が基準価額にプラスに寄与したわけではなく、直近で買い入れた銘柄も含めてではありますが、約3割の銘柄が残念ながらマイナスに寄与しています。**しかし、**寄与度上位銘柄の上昇幅よりも寄与度下位銘柄の下落幅が小さかったり、投資ウェイトをコントロールする中で下落幅を抑制したりしたこともあり、ポートフォリオ全体でのパフォーマンスは良好に推移**することができました。

私たちが描いた「ちょっと先の未来」と現実が相違することは常であり、こうしたことも踏まえて、ポートフォリオを構築することで、下落リスクの抑制に努めながら運用をしています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

ファンドマネージャーコメント

Q3.

今後の運用方針を教えてください。

A3.

当ファンドにおいては、**徹底した企業取材に基づき「ちょっと先の未来」に「企業価値が高まっている企業」あるいは「市場評価が高まっている企業」に投資していく方針は変わりません。**

国内株式市場を取り巻く環境を見てみると、依然不透明感が強いのが現状です。グローバル経済においては米中貿易摩擦や英国のEU（欧州連合）離脱問題などを背景に、先行きを見通すのが難しい状況にあります。国内においても、10月施行予定の消費増税の影響が企業業績にどう現れてくるのか、注視していく必要があります。このような状況ではありますが、個別企業で見れば、**外部環境に左右されることなく、あるいは、こうした外部環境に適応して、企業価値を高めていく日本企業は多くある**と考えています。また、**不透明感が強いからこそ、企業の中でも新たな状況の変化が起こる可能性もあり、徹底した企業取材を重ねていくことで、その変化を見極めていきたい**と考えています。

私たちは、引き続き、徹底した企業取材をベースに企業の「ちょっと先の未来」を考え、投資対象企業を選別することで、投資成果を積み上げていきたいと考えています。

アクティブ運用には、社会に新たな付加価値を提供して未来を創っていく企業を見極めて投資するという側面があります。より良い未来を創っていく可能性のある企業に投資し、投資家の皆様の中長期的な資産形成にもつなげていくことができますと考えています。期間によっては、基準価額の下落幅が大きくなったり、投資成果が市場平均にも劣後したりするようなことがあるかもしれませんが、こうした**アクティブ運用の魅力やそれがもたらす価値をご理解いただき、中長期の視点で未永くご愛顧いただければ幸いです。**

ファンドマネージャー一同、今後とも精一杯努力していきます。今後ともよろしくお願いいたします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

ファンドの特色

1. アクティブ元年・日本株マザーファンド（以下「マザーファンド」ということがあります。）への投資を通じて、日本の取引所に上場している株式（上場予定銘柄を含みます。）に投資します。
 2. 徹底したボトムアップ・リサーチに基づき、企業規模にとらわれることなく企業価値の向上や市場評価の見直しが期待される銘柄を選別します。
 - 定量評価・定性評価の両面から、企業価値の向上が見込める銘柄を選別します。
 - 定量評価…成長力、利益率、安全性、バリュエーション等
 - 定性評価…企業取材から得た情報を基にした投資アイデア、経営戦略、マネジメント力、商品開発力、競争力等
 - ポートフォリオ構築にあたっては、目標株価水準に比べ割安な銘柄を組み入れるとともに、流動性を勘案して分散を図ります。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

ファンドは、主に日本の株式を投資対象としています（マザーファンドを通じて間接的に投資する場合を含みます。）。ファンドの基準価額は、組み入れた株式の値動き、当該発行者の経営・財務状況の変化等の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果としてファンドに生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、ファンドは**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。ファンドの主要なリスクは、以下の通りです。

■ 株式市場リスク

内外の政治、経済、社会情勢等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況、これらに対する外部的評価の変化等によって変動し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。特に、企業が倒産や大幅な業績悪化に陥った場合、当該企業の株式の価値が大きく下落し、基準価額が大きく下落する要因となります。

■ 信用リスク

ファンドが投資している有価証券や金融商品に債務不履行が発生あるいは懸念される場合に、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 市場流動性リスク

ファンドの資金流入に伴い、有価証券等を大量に売買しなければならぬ場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等には、必要な取引ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。
- 投資資産の市場流動性が低下することにより投資資産の取引等が困難となった場合は、ファンドの換金申込みの受け付けを中止すること、および既に受け付けた換金申込みを取り消すことがあります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

お申込みメモ

購入単位

- スポット購入の場合：1万円以上 1円単位
- 定期積立プランの場合：1千円以上 1千円単位

購入価額

- 購入申込受付日の基準価額となります。
- ただし、累積投資契約に基づく分配金の再投資の場合は、各計算期末の基準価額となります。

購入代金

- 販売会社の指定の期日までに、指定の方法でお支払いください。

換金単位

- 口数指定の場合：1口単位
- 金額指定の場合：1円単位

換金価額

- 換金申込受付日の基準価額から信託財産留保額（0.15%）を差し引いた価額となります。

換金代金

- 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目以降にお支払いします。

信託期間

- 無期限です。（信託設定日：2019年2月5日）

決算日

- 毎年1月20日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

- 決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。
- 原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 配当控除の適用が可能です。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
無手数料です。
- 信託財産留保額
換金時に、1口につき、換金申込受付日の基準価額に0.15%の率を乗じた額が差し引かれます。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年1.0584%（税抜き0.98%）の率を乗じた額です。
- その他の費用・手数料
上記のほか、ファンドの監査費用や有価証券の売買時の手数料、資産を外国で保管する場合の費用等（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）が信託財産から支払われます。これらの費用に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用状況により変化するため、あらかじめ、その金額等を具体的に記載することはできません。
- ※ ファンドの費用（手数料等）の合計額、その上限額、計算方法等は、投資者の保有期間に応じて異なる等の理由により、あらかじめ具体的に記載することはできません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用

 三井住友DSアセットマネジメント

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	<p>ファンドの運用の指図等を行います。</p> <p>三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p> <p>三井住友DS投信直販ネット ホームページ：https://tyokuhan-net.smam-jp.com/ 投信直販お客さま窓口 フリーダイヤル：0120-45-1104 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）</p>
受託会社	<p>ファンドの財産の保管および管理等を行います。</p> <p>三井住友信託銀行株式会社</p>
販売会社	<p>ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。</p>

アクティブ元年・日本株ファンド

【投信協会商品分類】 追加型投信／国内／株式

作成基準日：2019年07月31日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会 一般社団法人	一般社団法人 投資信託協会	備考
三井住友DSアセットマネジメント株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号		○	○		○	

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- TOPIXは、株式会社東京証券取引所が公表する指数であり、その指数に関する著作権、知的財産権、その他一切の権利は株式会社東京証券取引所に帰属します。また、当ファンドを同社が保証するものではありません。

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用

